

「雪氷冷熱活用のプロジェクト 「希望の桜」で五輪マラソン応援

北海道雪氷桜プロジェクト

クト実行委員会（実行委員長・越智文雄あかりみらい社長）は「北海道雪氷桜プロジェクト202

1」で、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催応援を目指している。雪氷エネルギーを活用した「希望の桜」

で世界のアスリートを迎えるという考えだ。

同委員会は、18年に北海道150年を記念して市民活動として発足した。

19年には猛暑の銀座で雪柱と桜の展示実験を行い、昨夏は道内30以上の自治体の協力を得て、札幌駅とさっぽろテレビ塔、新千歳空港で約3000本の展示を行った。

今年は「3年越しの夢」を実現しようと、3月に始動した。桜の名所である松前町や新ひだか町をはじめ道内32自治体と北海道神宮から集まつたおよそ3300本のつぼみのついた桜の枝を「希望の桜」と名付けて3月26



▲農業用コンテナを用いて長さ1㍍に剪定した桜の枝を埋雪した。
(右下は横山茂沼田町長)

日に沼田町の雪山に埋雪。オリンピック開催前に掘り出して、真夏に桜を咲かせ、その小枝を振ってマラソンや競歩の選手を応援する計画だ。

越智氏はこう語る。

「オリンピックの開催に向け、聖火リレーが始まっています。感染対策の厳戒態勢はとられているもの、基本的に沿道の応援で、明るいムードを醸し出しています。私



▲北海道神宮で子どもたちが桜の剪定を行った

ども実行委員会も札幌での競技の観客ありでの実現です」

の応援は札幌市の指導に基づいて行いますが、例えば1000人の子どもたちに1㍍間隔で整列してもらい、桜の小枝を振る。そうすることで子どもたちも一生の記憶としてオリンピックを体験できるのです」

また、美唄市に埋めた直径1㍍の雪柱も、競技の開催期間中に展示される予定。マラソンのゴール付近の市役所近辺など

現を祈っています。

応援は札幌市の指導に基づいて行いますが、例



▲昨夏、札幌駅南口地下街「アピア」に展示された桜の枝